

明治維新150周年記念 黎明館企画特別展

華麗なる 薩摩焼

— 万国博覧会の時代のきらめき —

2018 12.25 ^{tue}(火) - 2019 2.24 ^{sun}(日)

休館日〈1月1日・2日・7日・15日・21日・25日・28日・2月4日・12日・18日〉

黎明館 2階 第2・3特別展示室 9:00~18:00〔入館は17:30まで〕

観覧料 一般 1,000円(800円) | 高校・大学生 600円(480円) | 中学生以下 無料

※()内は前売券および20名以上の団体料金。※前売券は、10月21日から黎明館、山形屋、マルヤガーデンス、生協コープ各店、アミューズ鹿兒島、鹿兒島県職員生活協同組合、ファミリーマート(イープラス)、高木画荘、大谷画材、集景堂等にて販売。
※県内の高校・特別支援学校の高等部の生徒とその引率者については、教育課程等に基づく学習活動として入館する場合は、観覧料は免除になります。(事前の申請が必要です) ※障害者手帳の提示で観覧料が免除になります。(介護者1名免除)

金襴手岩上観音坐像 個人蔵



見逃せない

エルミタージュ美術館所蔵、皇帝ニコライ2世の薩摩焼が初めて里帰り

関連プログラム

国際シンポジウム《聴講無料、事前申込不要、先着順》

「華麗なる「SATSUMA」の展開—日本陶磁器の海外輸出の視点から—
12月25日(火) 13:30~16:00 黎明館2階 講堂(245席)

基調講演

「ヴィクトリア&アルバート博物館の日本陶磁コレクション」

◎講師/ルパート・フォークナー氏
(ヴィクトリア&アルバート博物館 東洋部日本美術担当主任学芸員)

パネルディスカッション

◎パネリスト/ルパート・フォークナー氏(V&A博物館)

伊藤 嘉章氏(九州国立博物館副館長)

渡辺 芳郎氏(鹿児島大学法文学部教授)

◎コーディネーター/深港 恭子(黎明館主任学芸専門員)

明治維新150周年・ニコライ2世没後100周年記念トークショー

《聴講無料、事前申込不要、先着順》

「ロシア皇帝ニコライ2世と島津忠義 ~薩摩焼がつないだ薩露交流~」

1月27日(日) 14:30~16:00 黎明館2階 講堂(245席)

◎出演/島津 忠裕氏(株式会社島津興業 代表取締役社長[島津家第33代])
十五代 沈壽官氏(沈壽官家当主)

◎コーディネーター/深港 恭子(黎明館主任学芸専門員)

講演会《聴講無料、事前申込不要、先着順》

「明治150年 近代日本工芸の世界戦略と「SATSUMA」」

1月13日(日) 13:30~15:00 黎明館2階 講堂(245席)

◎講師/前崎 信也氏(京都女子大学家政学部准教授)

展示解説講座《聴講無料、事前申込不要、先着順》

「在外資料からみる薩摩焼の幕末・明治」

2月10日(日) 13:30~15:00 黎明館3階 講座室(80席)

◎講師/深港 恭子(黎明館主任学芸専門員)

ワークショップ①《要電話申込み、先着15名》

「薩摩焼でティーパーティー ~器とお菓子でつくる私の世界~」

1月6日(日) 13:30~16:30 黎明館 茶室 楠芳亭

◎講師/下原 美保氏(鹿児島大学教育学部教授)

◎対象/小学生 ~一般 ◎参加費/700円(お抹茶、お菓子付)

ワークショップ②《要電話申込み、先着20名》

「破片から生まれるアートピース」

2月3日(日) 13:30~16:30 黎明館1階ギャラリー(城山シーズンング内)

◎講師/宮岡 広幸氏(彫刻家、霧島アートの森学芸課長)

◎対象/小学生 ~一般 ◎参加費/500円(ドリンク付)

※ワークショップのお申込みは099-222-5404(学芸課)まで

交通

飛行機

●鹿児島空港より、鹿児島市内行き空港バス「金生町」下車徒歩10分

JR

●「鹿児島中央駅」より、市電・バスを利用
●「鹿児島駅」より 徒歩15分

市電・バス

●「市役所前」下車徒歩5分

市内巡回観光バス

●「薩摩義士碑前」下車すぐ

駐車場

●照国神社大鳥居をくぐって右折し直進<普通車125台、バス20台>

Access

-10 minutes' walk from Tenmonkan

-15 minutes by City Tram or Bus from Kagoshima Chuo Station
(Get off at 'Shiyakusyo-mae' and 5 minutes' walk)

* Loop Bus (City / Private)

Get off at 'Satsumagishihhi-Mae' and 1 minutes' walk

* Airport Bus (50 minutes from Kagoshima Airport)

Get off at 'Kinsei-cho' and 10 minutes' walk

* Parking Available

問い合わせ

鹿児島県歴史資料センター 黎明館

Kagoshima Prefectural Museum of Culture Reimeikan

Tel.099-222-5100 〒892-0853 鹿児島市城山町7番2号

7-2, Shiroyama-Cho, Kagoshima-City
<https://www.pref.kagoshima.jp/reimeikan/>



※御楼門建設工事に伴い、黎明館へは薩摩義士碑前の北門入口及び県立図書館側の駐車場入口よりご入館ください。
※Please enter from north gate or parking gate.



錦手賢人像 個人蔵

今 から420年前、朝鮮半島から渡来した陶工らによって「薩摩焼」が誕生しました。江戸初期には白薩摩が生み出され、高品質の

御用品として発展を遂げ、幕末には、藩による近代化事業の中で輸出を視野に改良が加えられます。そして明治維新の前年、日本が初めて公式に参加したパリ万博（1867年）で華麗な絵付けの「薩摩錦手」が人気を博し、海外輸出の端緒が開かれました。

薩 摩藩の手によって国際デビューを果たした薩摩焼は、明治維新を契機に民需品へと転換、「SATSUMA」の名で世界の需要に応え、「大輸出時代」が創出されました。それらを支えたのは、民間経営の窯元たちでした。

本 展覧会では、「国際性」をテーマに国内外の著名な美術館などから薩摩焼の逸品約250点が集結、中でもイギリスやアメリカなど海外4カ国から、万博出品作を中心に約50点が出展され、そのほとんどが国内初公開となります。1867年パリ万博の出品作が初めて展覧会に出品されるほか、エ

ルミタージュ美術館が所蔵する、ロシア皇帝ニコライ2世の「錦手四君子図茶壺形蓋付壺」が約120年ぶりに初めて里帰ります。

世 界的需要を実現させた薩摩焼の華麗なる変容と、世界を魅了した華麗なる姿をお楽しみください。



白薩摩文殊菩薩像
19世紀
沈家伝世品収蔵庫蔵

国焼誕生

朝鮮出兵という衝突を経て、朝鮮半島から渡来した陶工らによって薩摩の国名を冠する「薩摩焼」が誕生しました。海外の先進技術を移入して始まる薩摩焼の歴史は、国際性に溢れています。彼らの手になる茶道具は、関ヶ原の戦い後、早くも中央政権の人々や茶人たちの評価を得ました。



白釉茶碗 火計手
鹿児島県指定有形文化財
17世紀前半
鹿児島市立美術館蔵



肩衝茶入 銘「サイノホコ」
17世紀前半
一般財団法人 田中丸コレクション蔵

内なる熟成 — 白の系譜

17世紀初め頃、領内で白色原料が発見されたことにより、「白薩摩」が誕生しました。貴重な白土を用いる白薩摩は藩の御用品となり、格調高い白色陶器へと磨き上げられます。さらに象嵌や鉄絵、色鮮やかな錦手などが生み出され、豊かな装飾品へと発展しました。



宋胡録写鳥口水注
18〜19世紀
沈家伝世品収蔵庫蔵



白薩摩鼎形香炉
18〜19世紀
個人蔵



薩摩藩築百箇 陸路四一苗代川（部分）
文化12年（1815）
東京大学史料編纂所蔵

開かれる視野

幕末、薩摩藩が取り組んだ近代化事業の中で、来るべき海外交易の時代に向けた創意工夫が試みられます。色絵の具やデザインの研究により、明治維新を前に海外を意識した「一輸出向けスタイル」と言うべき新たな姿へと大きく変容を遂げていきました。



白薩摩白形盛器
天明6年（1786）
鹿児島県歴史資料センター
黎明館蔵



色絵秋草図井筒形鉢
島津家伝来
19世紀
個人蔵



錦手丹飾秋草図双耳香炉
19世紀
（公財）長島美術館蔵



錦手花鳥図花瓶
19世紀後半
個人蔵

SATSUMA

明治維新の前年、日本が初めて公式に参加したパリ万博（1867年）で、薩摩産が出品した華麗な「薩摩錦手」が人気を博します。

世界の薩摩焼250点が鹿児島に集結！これは事件です。

薩摩藩の手に国際デビューを果たした薩摩焼は、海外では「SATSUMA」と称され、明治維新を経て、万博などを通じて販路を拡げ、やがて「大輸出時代」が創出されていきました。



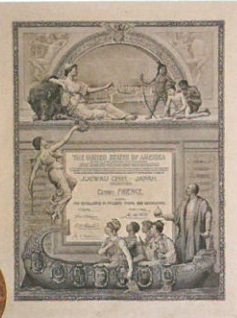
1867年パリ万博出品
右：錦手藤園象耳花瓶
左：錦手藤園象耳花瓶
慶応3年（1867）頃
©Victoria and Albert Museum, London



1873年ウィーン万博出品
錦手花図花瓶 一对
吾代川陶器会社
明治6年（1873）頃
Mark Austrian Museum of Applied Arts / Contemporary Arts
Photograph: © MAK / Georg Mayer



1876年マドリード万国博出品
錦手獅子雄冠香炉
明治9年（1876）頃
©Victoria and Albert Museum, London



十三代沈壽官「カニ」万博露状・メダル
明治26年（1901）頃
沈家伝世品収蔵庫蔵

SATSUMA STYLESの隆盛

明治時代に入ると、いち早く国際的な評価を受けていた薩摩焼は、外貨獲得のための重要産品に位置づけられます。その結果、国内の多くの産地が生産に参入、京薩摩や横浜薩摩といった「SATSUMA STYLE」の製品が隆盛しました。



錦手唐子像
19世紀後半
©The Walters Art Museum, Baltimore, Maryland
49.872 / 49.873



1878年パリ万博出品
錦手花鳥図陶板飾雄雄朱筆箱
錦光山宗兵衛（六代）
明治11年（1878）頃
個人蔵



錦手四君子図透彫角型香炉
十二代沈壽官
19世紀後半〜20世紀初
沈家伝世品収蔵庫蔵

世界への挑戦 — 鹿児島窯元たち

鹿児島では廃藩置県を機に、土族による陶器会社が置かれますが、西南戦争等の影響を受けて倒産。これを境に本格的な民間経営の時代を迎えます。明治8年（1875）創業の十二代沈壽官により端緒が開かれ、東郷壽勝、隈元金六、慶田政太郎らが万博出品などを通じて海外輸出に参入しました。



錦手鳳凰文象耳花瓶
今井月山
19世紀後半
個人蔵



錦手蝶舞透彫香炉
隈元金六
19世紀後半〜20世紀初
個人蔵

ロシア皇帝の薩摩焼

明治24年（1891）、ロシア皇太子ニコライ一行が国賓として来鹿、これを迎えた島津忠義は薩摩焼を贈り、互いに親交を深めました。忠義は、皇帝となったニコライ2世の戴冠式の折にも、十二代沈壽官に特注した、紋章入りの華麗な薩摩焼を贈りました。その記念碑的作品が、今回、初めてロシアを出て鹿児島で公開されます。



錦手花丹図花瓶彩色下絵図
沈壽官蔵
明治24年（1891）頃
沈家伝世品収蔵庫蔵



色絵金彩象形香炉
東郷壽勝
19世紀後半
東京国立博物館蔵
Image: TMM Image Archives



錦手花丹図花瓶
十二代沈壽官
明治24年（1891）頃
Photo: The State Hermitage Museum, St. Petersburg,
2018 / Alexander Laventyev

日本だけじゃない！イギリスから、アメリカから、オーストリアから、そしてロシアから